

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	1272000116		
法人名	社会福祉法人 旭福祉会		
事業所名	やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい		
所在地	千葉県旭市イの3925番の2 (電話) 0479-63-9011		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	2008年2月15日	評価確定日	2008年3月4日

【情報提供票より】(2008年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/>	12年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8人	常勤	6人,	非常勤 2人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	11,200 円	
敷金	有() 円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(200,000円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	1名	要介護2	2名			
要介護3	5名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2				
年齢	平均	87.8歳	最低	82歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人黒潮会田辺病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は複合福祉サービス施設やすらぎ園の同一敷地内に、8年前に設立された千葉県第一号のグループホームである。建物は木造2階で採光も良く、暖かみのある居住空間が出来ている。退去者、入居者入替は比較的少なく、その分高齢化、介護度は進んでいるが、笑いがある明るい雰囲気的生活環境が作られている。当事業所の入居者に対する生活支援では、美味しく楽しい食事、多様な外出支援、楽しみごと・気晴らし支援、リハビリ体操支援、等がすばらしく、入居者、家族に喜ばれている。また協力医療機関として田辺病院、敷地内に歯科医新設など医療連携体制は特筆できるものがある。さらに複合福祉サービス施設の多機能性を生かした、共通総合イベントや、施設設備の相互活用などによる利点は多大なものがある。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で指摘された運営理念の明示(パンフに記載)、換気・空調の配慮(加湿対策としての湿度計の設置)、入居者の自己決定を促進(自炊回数増)、ホーム機能の地域への還元(認知症講師派遣)は全て改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で行い、チーム会議などで具体的改善案の作成に取り組むようにしている。今回の取り組み課題として 運営推進会議での適切な議案の検討 面会の少ない家族への情報交換方法の検討 同業者との交流の促進 入居者の真の希望の把握 2階避難経路の確保が提起
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議には利用者家族代表、地域住民代表、旭市職員の出席を頂き、前回の評価結果の改善課題を討議し、それぞれ改善・実践に繋げている。今後の運営推進会議では外部評価結果に対する意見交換の他に、地域情報の交換、施設空間再構築の意見交換 各種イベントに対する意見交換 消防署員を招いて災害避難対策に関する意見交換、等が議案として用意されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からの相談、不満、苦情は苦情相談窓口を設定すると共に、職員が日々対応し、毎日のミーティングで内容の吟味を行い、重要課題は園長に報告されている。更に年2回開催している家族会でのアンケート調査結果は運営・サービスの参考にしている。面会の少ない家族には郵送にて対応しているが提供情報量が少なくなっており、今後の検討課題とする事を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携は、法人が主催する夏の「納涼会」冬の「もちつき大会」に地域住民の招待、また市主催の「菊花展」商工会が実施する「七夕祭」などへの積極的な参加、民家のひまわり畑の見物などにより、地域との双方向のつながりを重視した入居者との交流が図られている。さらに地域貢献として市民対象の介護者教室に、当事業所の管理者を認知症についての講師として派遣している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当事業所では「一人ひとりを大切にしたい質の高い介護サービスの提供」を基本理念としている。重要事項説明書の冒頭に「認知症によって自立が困難になった方を家庭的な環境の下で、残存能力に応じた自立生活を営むことを可能にすること」を目的とし、運営方針として入居者の意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービス提供に努めます。市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携を図り、総合的なサービスの提供に努めます、と明文化している。理念、方針をわかり易く表現し、対外的にも周知徹底が図られている。</p>		<p>前回の外部評価で指摘された案内パンフレットへの理念の未記載については、現在パンフレット内容を改訂中であり、記載されることになっている。</p>
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎年度初めの全体会議で理事長から理念及び基本方針の訓示がなされ周知徹底が図られている事が議事録で確認できた。さらにグループホームまどいの事業計画書冒頭に基本方針として家庭的な環境の下で、個々の利用者が安心かつ自信をもてるよう、日常生活の支援を行う、利用者の意思及び人格を尊重した利用者本位のサービスを提供する、が明文化されている。毎年、管理者、職員全員によってこれらの見直し検討が行われており、共有及び実践の取り組みが着実に展開されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>法人が主催する夏の「納涼会」冬の「もちつき大会」に地域住民をお招きし、入居者との交流が図られている。また、市主催の「菊花展」商工会が実施する「七夕祭」などにも積極的に参加したり、民家のひまわり畑の見物などを行うことにより、地域とのつながりを重視している。さらに地域貢献として在宅介護支援センター主催の市民対象の介護者教室に、当事業所の管理者が認知症についての講師として派遣されている。</p>		
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価の結果を踏まえて、チーム会議などで改善案を作成し実践している。具体的には湿度計を設置するとともに、部屋の加湿対策に気を配るようしたこと。また月に一度であった入居者参加の自炊回数増については試行錯誤の結果、自作おやつの回数を増やすことが改善されている。今回も自己評価は全職員で行い、課題として 運営推進会議での適切な議案の検討 面会の少ない家族への情報交換方法の検討 同業者との交流の促進 入居者の真の希望の把握 2階の避難経路の確保、を提起し、をチーム会議などで検討の上、具体的改善案の作成に全職員で取り組んでいる。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>19年度の運営推進会議は利用者家族代表、地域住民代表、旭市職員、の協力をいただき、2回実施している。2回目の会議では前回の外部評価の結果報告を行い、出席者からご意見をいただきサービス向上に活かされている。今後の運営推進会議の議題としては外部評価の結果報告に留まらず 施設内イベントの実施に対するご意見 施設内空間作りに対する参考意見 消防署員の出席を得て、まどい二階の災害避難経路対策について等が提起されている。</p>		<p>運営推進会議における議題として外部評価の結果報告に留まらず、適切な議題の検討及び出席者層の拡大などの提起で活発な議論を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市当局には月一度利用者名簿、待機者名簿を届けており、その時に市担当者との交流が図られている。その他に日常の課題で、電話による相談も頻繁に行われている。過去に県の職員の現場研修の場を提供したケースもあり、行政との積極的な協働関係作りがうかがえる。</p>		<p>当事業所の運営上の課題から市当局に相談するテーマを抽出提起することによって、市担当者との協働機会が活発化されることを期待している。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に対する入居者の生活状態や健康状態、金銭管理、事業所情報の報告・連絡は、面会時、随時電話連絡、3ヶ月に一回発行される広報誌「まどい新聞」、年2回の家族会面談にて行われている。面会の少ない家族には郵送にて対応しているが提供情報量が少なくなってしまうきらいがある。</p>		<p>面会の少ない家族に対する具体的な情報交換方法の弛まぬ検討を期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの相談、不満、苦情、は苦情相談窓口を設定するとともに、職員が日々対応し、毎日のミーティングで内容の吟味を行い、重要課題は園長に報告されている。さらに年2回開催している家族会でアンケート調査に協力いただいて、結果は運営・サービスの参考にしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での人事異動（交代回数）は多い方だが、同一敷地法人内の異動のため、入居者にとっては異動後も顔を合わせることが多く、異動の時も受け入れやすくなっている。異動時の引継ぎも所定の引継書、的確な引継ぎ期間を設けて、入居者と新職員が慣れ合える様、配慮されている。職員の離職回避対策も、職員の生活環境に配慮し、勤務時間や休日も可能な限り希望に添えるような契約をしている。</p>		
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>当事業所の職員の研修機会は、新入職員研修、各委員会併設の内部研修会（毎月）、外部研修会（年3～4回）となっている。外部研修の自己申告による研修チャンスも与えられている。また、受講後には全体会議で研修報告をすることが義務付けられており、研修内容の共有化がなされている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者の管理者や職員との交流は実現していない。当該地域に同業者連絡会などのネットワークがないため、外部研修時の受講生間の交流機会を活用している。</p>		<p>今後グループホーム同業者との交流を通じてサービスの質の向上を図るためには、外部研修受講生間の交流機会の活用のみならず、運営者が交流目的を明確にして同業運営者への積極的な働きかけをされることを期待したい。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当事業所の入居者は長期間入居がほとんどである。その中で一番新しい方でも1年前に老健施設から直接入居されたため、馴染みながら入居されるケースがなかったのが実情であるが、今後は体験利用だけでなく本人や家族に希望のもとに、本人に合わせた方法で馴染めるよう対応してゆきたいとしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から縫い物や、調理の包丁の使い方、ふきの皮むきなどを教えていただいたり、入居者が得意な塗り絵やジグソーパズル作品などを通じて、喜びを共にする関係作りが図られている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>当事業所に入居する前に家族から詳しく入居者の生活歴や性格、心身の状況を聞いている。あわせておしゃれの好みや踊りなどの趣味の情報も聞いて、入居者の希望や意向を把握する参考にしている。入居してからは常時交わっている会話や行動から、体操のように体を動かすことの好みや歌の趣味など、入居者一人ひとりの意向を常に把握することに努めている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入浴拒否や不穏状態の場合は入居者の日常生活のなかで入浴拒否する状況や不穏状態になる状況と、そのとき試みた声掛けなどいろいろな介護の方法をきめ細かく日誌に記録して、介護計画作成の検討資料にしている。併せて面会に来た家族からも意見を聞いて、ケアマネ-ジャー、看護師、担当者によるチームのカンファレンスで検討し、本人本意の介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者全員の介護計画は3ヶ月ごとに見直しをして、現状と計画の乖離を生じさせないように対応している。特に著しい体調の変化や異常時には臨時のカンファレンスを開いて見直しをしている。入居者の状況が臨時のカンファレンスを開くまでにいたらない変化の場合は、実際の介護で適切な対応ができるようにミーティングで確認している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の機能低下の防止にストレッチ体操の「生き生きらくらく運動」を取り入れたり、パドルというやわらかい棒を使い音楽に合わせて行なう「パドル体操」を日常活動に取り入れている。また、食事前には間接的嚥下訓練も実施している。食事は同じ法人が経営する同一敷地内の特別養護老人ホームが調理しており、普通浴が困難な入居者は同施設のリフト浴を利用できるようになっている。</p>		<p>最近同一敷地内に市からの働きかけによって機能訓練施設「パワーアップセンター」が開設されている。現在は使用料が無料なのか有料なのかなど利用方法について、法人内で検討中であり、「グループホームまどい」の入居者は利用していない。希望する入居者が活用できるように、利用方法を早期に市と協議して見解を得ることを期待したい。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の田辺病院が入居者のかかりつけ医になっており、毎日のように医師が事業所に顔を見せている。また、同じ敷地内のやすらぎ歯科クリニックが協力歯科医療機関になっていて、歯の通院治療が至極便利になっている。田辺病院にない眼科などの診療科目の通院については原則家族対応になっているが、困難な場合は通院の支援を職員が代行ができる体制ができています。田辺病院との密接で細やかな連携や医療支援は家族や入居者にとって大きな安心感になっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>法人として看取りの指針が定められており、協力医療機関の田辺病院と終末期の連携がとれる体制になっている。職員全員も方針や連携体制を理解している。家族には入居のとき看取りの指針を説明して、「重度化した場合における対応の指針同意書」をもらっている。また、終末期には「看取りの介護についての同意書」で同意を受けることになっている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>「プライバシー保護マニュアル」を作成して、入居者への言葉遣いに気をつけたり、個人情報取り扱いの注意を徹底している。朝のミーティングでは園長から入居者をちゃんづけで呼ばない、ニックネームをつけない、職員も含めてお互いにさんづけで呼ぶことを申し合わされている。トイレ誘導のときは汚れているなどとそれと分かる言葉は使わない、他の人に聞こえるような声で誘導しないなど気配りを徹底している。また、個人情報の保護については情報のレベルわけの基準を定め、保護レベルの高い情報は限られた職員しか知り得ることができないシステムを検討作成中である。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>標準的なタイムスケジュールはあるが一応の目安であって、朝の起床時間や夜の就寝時間も入居者個々のペースで行なわれるように配慮がなされている。天気の良いので外の散歩をしたい、ボール投げや風船バレーのように体を動かしたい、室内で縫い物をしたい、アイロンかけをしたいなど入居者のペースを大切に支援している。時には職員ペースの支援になりかかっているときがあって、そのときは他の職員が指摘するなど互いに自制するようにしている。</p>		<p>入居者一人ひとりの希望を把握して援助しているが、中には、家に帰りたい、お墓参りをしたいなど家族の協力がないと実現が難しいものもある。家族に働きかけをしているが、現状では協力を得られるのが難しい状況である。ただ、お墓参りなど、事業所の体制如何で実現の可能性のあるものの検討を期待したい。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>通常は併設の特別養護老人ホームで調理されるおかげで、事業所で炊くご飯と味噌汁を職員と一緒に召し上がっている。月に一度は事業所独自でメニューを決め、食材の買い物から、調理、食事、後片付けまで入居者と一緒に行なう自炊の日がある。メニューは入居者と料理の本を見ながら選択したり、希望を聞き出したりして決めている。また、施設の敷地内で入居者が栽培したニラ、ピーマンなどの野菜を使って餃子や韓国料理のチジミを作るなどさまざまな工夫をしている。入居者とのおやつ作りも10日に一回を週一回に増やして、作る楽しみと食べる楽しみを工夫している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴前は毎回血圧と体温を計測して、週2回から3回午後二人ずつ入浴をしている。入浴の際にはゆずの香りなど好みの入浴剤を入れている。一番風呂にこだわる入居者には早い順番で、また、ゆっくり入りたい入居者は長めに入浴して、一人ひとりの入居者が入浴を楽しむ配慮をしている。骨折して、普通浴が困難な入居者は特別養護老人ホームの機械浴に入浴している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は入居者の生活歴から昔とった杵づかなどを良く把握しており、入居者が日常的に食事前のテーブル拭きやリビングの掃除、また洗濯物をたたむことなど、個々の活力を引き出す支援をしている。歌うことが好きな入居者は毎週月曜日の午前中には特別養護老人ホームで園長のピアノ伴奏による「歌のつどい」に参加して、童謡、民謡、流行歌などを楽しんでいる。さらに法人が計画実施している敬老会、もちつき、運動会、踊りの会など多彩なイベントに参加するなど年間を通して、当施設での生活を楽しんでいる。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的には近くの畑に農作物や水田に稲の生育状況をを見に行ったり、季節に応じてひまわり畑に出掛けるなど、気軽に散歩を楽しんでいる。月一回の自炊の日には自分でおにぎりを握り、近くのスポーツ公園でピクニックを楽しむこともある。また、併設の特別養護老人ホームに来る移動売店に出掛け、おやつを購入するなど買い物も楽しんでいる。さらに市が開催する文化会館の踊りの鑑賞や同じく市が主催し個人の家が登録参加して競うイルミネーション・コンテスト巡りをすることや商工会開催の七夕祭りなどにも出掛けるなど、気軽に多様な外出が出来ていることは優れた生活支援を実践しているといえる。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の施錠をせず開放している。外に出がちの入居者は常に見守りをしており、気配りをしながら全体の介護をしている。また、事業所から敷地の門までは距離もあり、入居者が単独で敷地内を歩行すると顔なじみの併設施設の職員も注意する態勢がとられている。</p>		
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年間計画で定期的に三回の防災避難訓練を実施し、そのうち一回は消防署員が立会いのもとで行なっている。また、法人が行なっている納涼祭や敬老会などのイベントに地元消防団の団員が参加して馴染みになっていることもあって、台風や大雨のときは自主的に駆けつけるなど支援の体制が出来上がっている。</p>		<p>当事業所は木造二階建て構造で七人の居室が二階になっているが避難口がないため、特に夜間時避難の困難さが想定される。メンバーに消防署員を加えた運営推進会議を開催し、専門家の意見を踏まえた対策の検討が望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事を楽しく摂って、栄養や水分が確保できるように食器は瀬戸物を使い、茶碗、湯のみ、箸、箸おきは職員と一緒に買い物に行き、気に入ったものを購入して使っている。摂食量の少ない入居者にはパンやおやつで補食している。逆に血糖値が高く医師から指示のある入居者にはご飯を少なめにしている。また、水分が不足気味のときは牛乳や麦茶で補食している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝は雰囲気作りに小鳥のさえずりを流したり、昼食のときはクラシック音楽をBGMとして流したりしている。リビングルームには季節によって正月飾り、雛人形、七夕飾りをするなど居心地のよい良い空間作りに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が気に入っている箆笥や大切にしている仏壇・位牌を持ち込んで居心地の良い居室作りをしている。また、壁には孫の成人式の写真などと自分の自慢の踊りの写真やイベントに参加したときの写真なども飾りつけて、自分の気に入る空間作りをしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。